

Waste Manager インストールガイド

Waste Manager-産廃マニフェスト管理運用支援システム(以下「産廃システム」)は、産業廃棄物のマニフェスト伝票、委託契約書、その他の書類を作成管理するシステムです。

内容

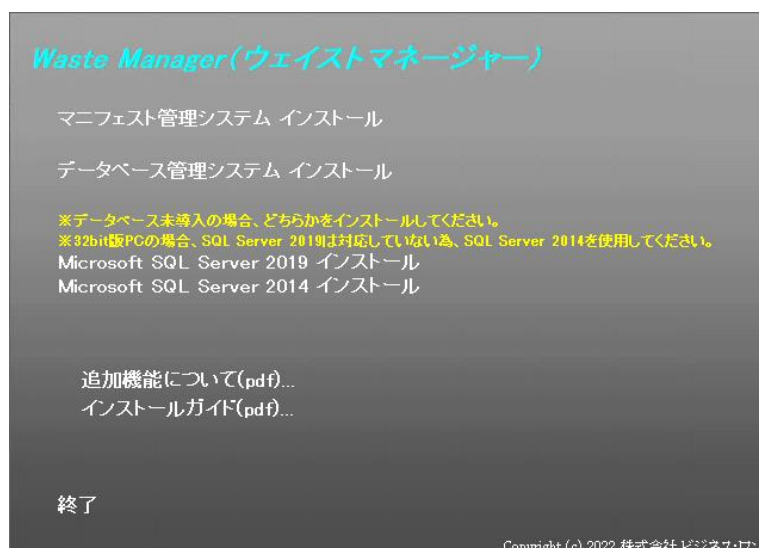
Waste Manager インストールガイド	1
インストール	2
データベースの設定	7
データベースの作成	8
データベースの退避・復元	8
データベースのユーザー管理	12
WasteManagerSQLServer のファイアウォール設定	16
データベースへの接続	23

インストール

産廃システムのインストールについて説明します。

■ インストールメニュー

インストールCDをドライブへ挿入した際に表示されるメニューです。



- **マニフェスト管理システム インストール**

マニフェスト伝票、委託契約書などの文書を編集管理するシステムをインストールします。

- **データベース管理システム インストール**

マニフェスト管理システムのデータを保存するデータベースを管理するシステムをインストールします。

- **Microsoft SQL Server 2019 インストール**

- **Microsoft SQL Server 2014 インストール**

新しいパソコンにインストールする場合はデータベースの導入が必要になります。

Microsoft SQL Server 2008 R2 で作成した「Waste Manager」の

退避データを復元して使用する場合は「Microsoft SQL Server 2014」を、
そのほかの場合は「Microsoft SQL Server 2019」をインストールしてください。

■ Microsoft SQL Server インストール手順

産廃システムのデータベースを管理するパソコンにインストールして下さい

産廃システムで使用するデータベースエンジンは Microsoft SQL Server です。データベースを導入していない場合は、インストールディスクに含まれる Microsoft SQL Server 2014 または Microsoft SQL Server 2019 を導入して下さい。



以前のバージョンの産廃システムで使用していたデータの退避データを復元して使用される場合は、Microsoft SQL Server 2014 をインストールしてください。



データベース管理システム インストールから導入される SQL Server は、混合モード、リモートアクセス許可でインストールします (インスタンス名「CBO_WM」)。SQL 認証の管理者「sa」のパスワードは「cbosanpai_2」です。

Microsoft SQL Server 2019 または Microsoft SQL Server 2014 をインストールする場合は次の手順で作業を行って下さい。

インストールメニューで「Microsoft SQL Server 2019 インストール」または「Microsoft SQL Server 2014 インストール」を選択して下さい。

自動でインストールが開始されます (インスタンス名は「CBO_WM」になります)。
セットアップ画面、コマンド画面がすべて終了すると、インストール完了です。

■ データベース管理システム インストール手順

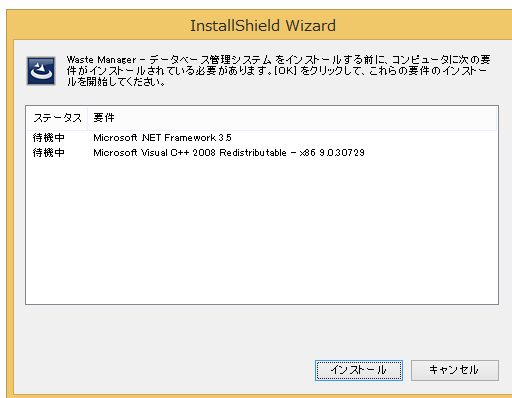
産廃システムのデータベースを管理するパソコンにインストールして下さい。

データベース管理システムをインストールする場合は次の手順で作業を行って下さい。

① **インストールメニューで「データベース管理システム インストール」を選択して下さい。**

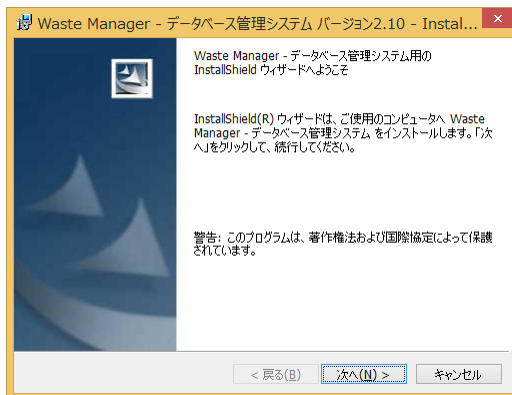
インストール作業が開始されます。

② **インストールするパソコンに「Microsoft .NET Framework 3.5」「Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable」が導入されていない場合は下記メッセージが表示されます。[インストール] ボタンを押してインストールを行って下さい。**

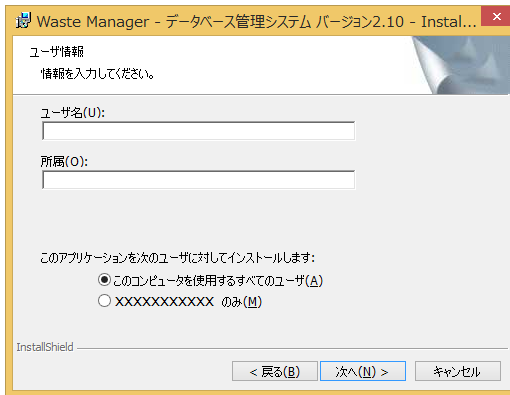


[インストール]ボタンを押した後は、「Microsoft .NET Framework 3.5」「Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable」を画面の指示に従ってインストールを進めて下さい。

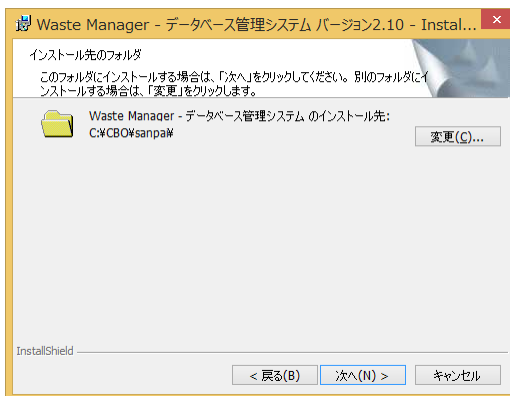
③ **データベース管理システムのインストールが開始されます。[次へ]ボタンを押して下さい。**



④ **ユーザー情報を設定するダイアログが表示されます。[次へ]ボタンを押して下さい。**

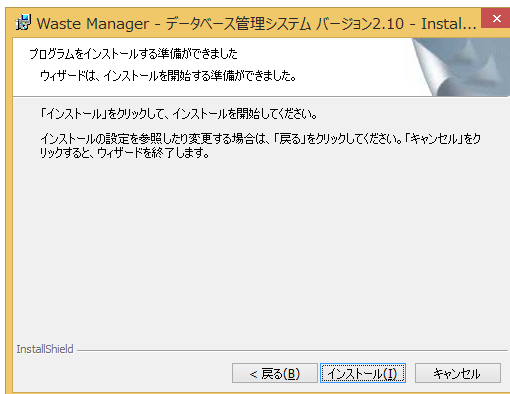


⑤ インストール先を設定するダイアログが表示されます。[次へ]ボタンを押して下さい。



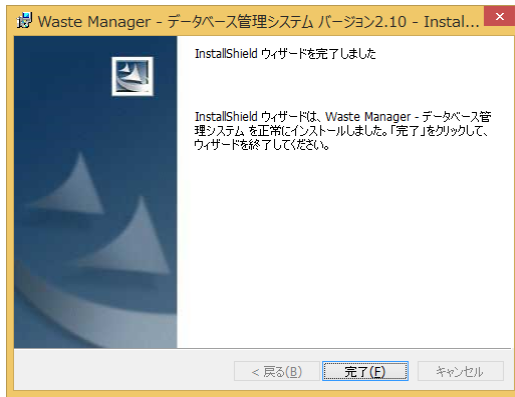
インストール先を変更する場合は[変更]ボタンを押して変更して下さい。

⑥ インストール確認メッセージが表示されます。[インストール]ボタンを押して下さい。



インストール作業が開始されます。終了すると完了メッセージが表示されます。

⑦ [完了]ボタンを押して下さい。



インストール作業の完了です。

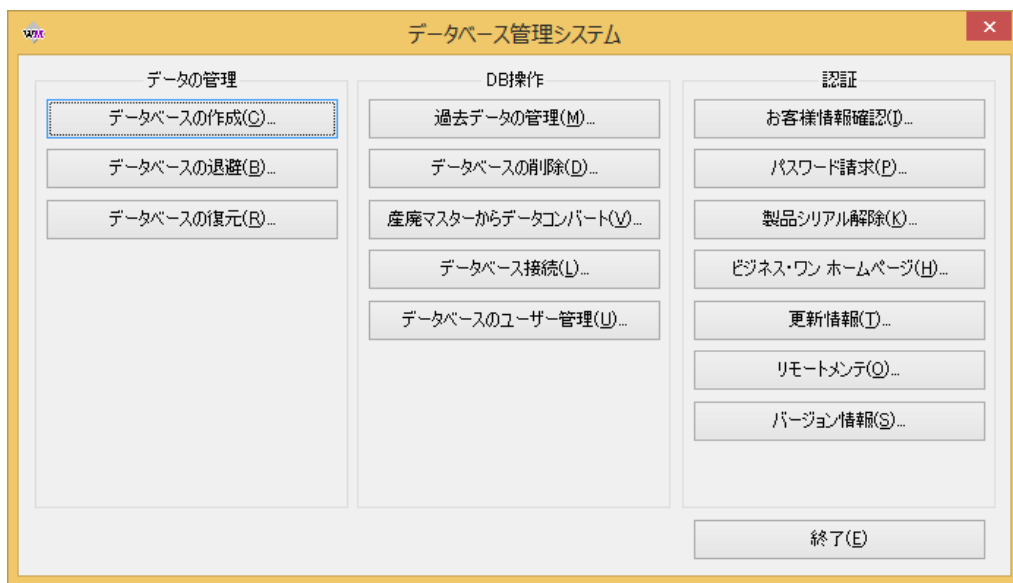
■ マニフェスト管理システム インストール手順

基本的なインストール手順は「データベース管理システム インストール (P.4)」と殆ど同じなのでそちらを参考にインストールを行って下さい。

データベースの設定

■ データベース管理システム

産廃システムのデータベースを編集するプログラムです。



インストールCDから「データベース管理システム」をインストールすると Windows の[スタート]-[プログラム]-[Waste Manager]-[データベース管理システム]で起動する事が出来ます。

● ログイン

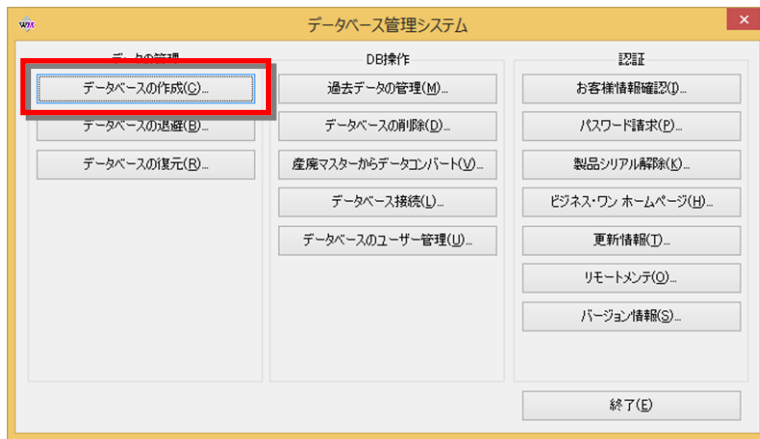
「データベース管理システム」の各機能は、[データベース接続]でデータベースに接続しないと使用出来ません。[データベース接続]ボタンを押すと「SQL Server の接続」ダイアログが表示されるので、[SQL Server]にローカルの SQL Server と認証情報を設定して[OK]ボタンを押してログインして下さい。



「データベース管理システム」は起動したパソコン(ローカル)のデータベースのみ編集する事が出来ません。また、データベースに接続する場合は必ず SQL Server の管理者権限でログインして下さい。

データベースの作成

- ① [データベースの作成]ボタンを押して下さい。



データベースが作成されます。



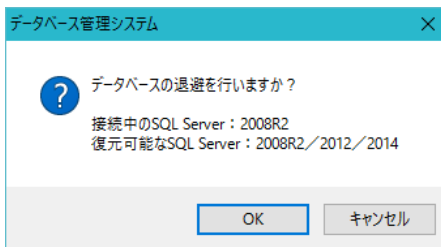
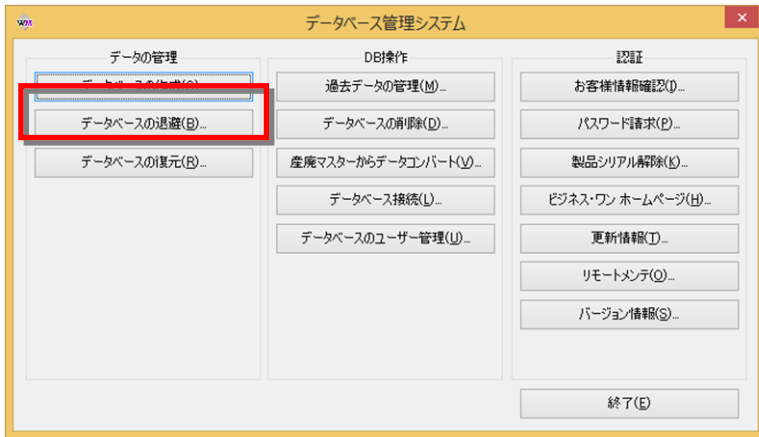
データベースの作成では、SQL Server に「CBO_SANPAI」というデータベースを作成します。また、既に産廃システムのデータベースが存在する場合や SQL Server のバージョンが古い場合は作成できません。

データベースの退避・復元

■ データベースの退避

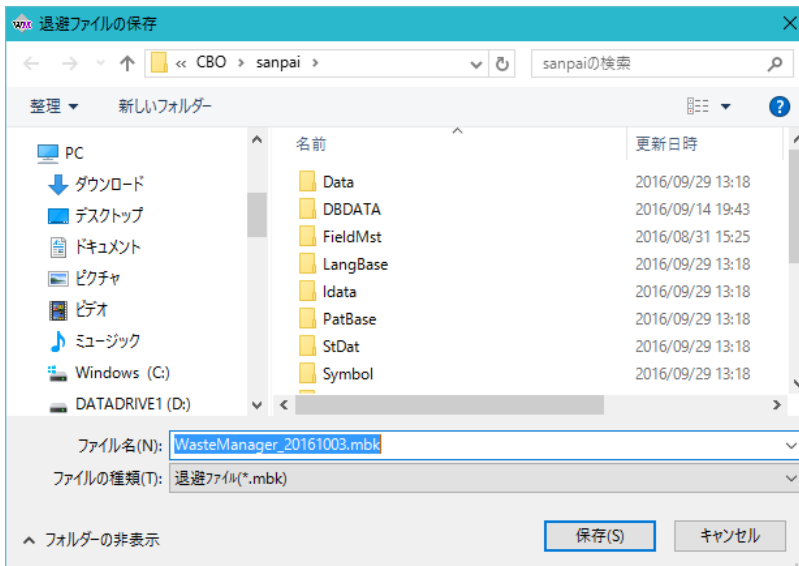
データベースをファイルに退避する機能です。「データベース管理システム」から[データベースの退避]ボタンを押すと「退避ファイルの保存」ダイアログが表示されるので出力先を選択して[保存]ボタンを押して下さい。

- ① [データベースの退避]ボタンを押して下さい。

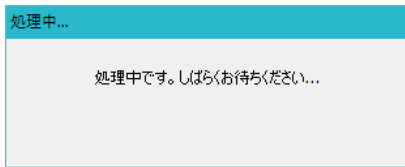


上図の確認メッセージが表示されます。そのまま「OK」を押下してください。

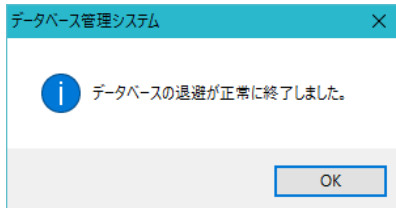
② 退避ファイルの保存先を選択してください



「保存」ボタンを押下で退避ファイルが作成されます。



③ 退避完了

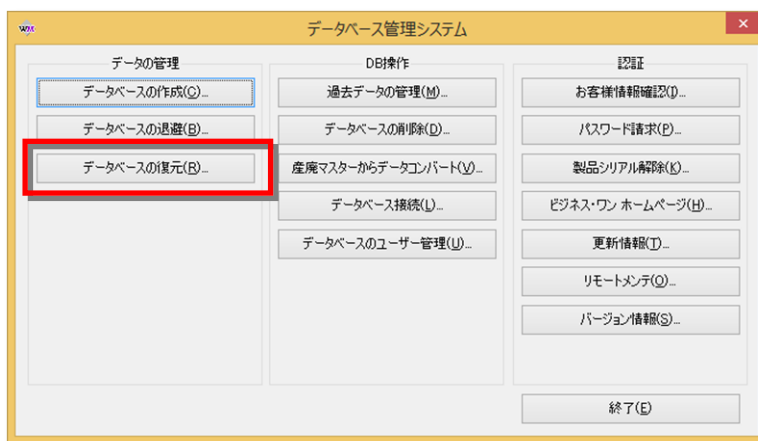


上図が表示されて、データベースの退避は完了です。

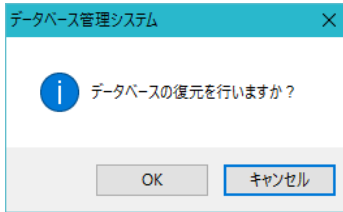
■ データベースの復元

「データベースの退避」で退避したファイルを、復元する機能です。「データベース管理システム」から[データベースの復元]ボタンを押すと「退避ファイルを開く」ダイアログが表示されるので復元するファイルを選択して[開く]ボタンを押して下さい。

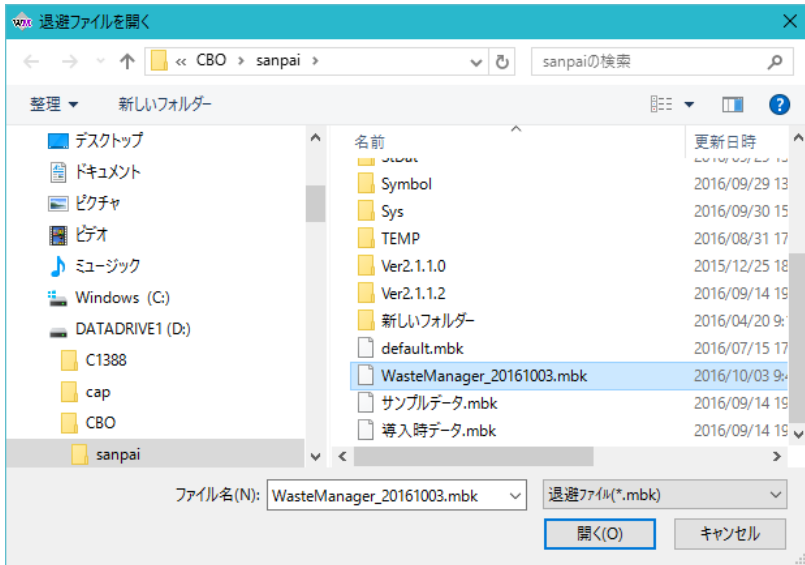
① [データベースの復元]ボタンを押して下さい。



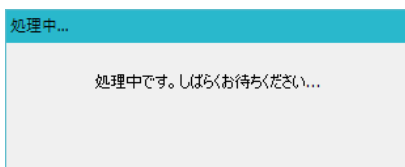
下図確認メッセージが表示されます。「OK」ボタン押下してください。



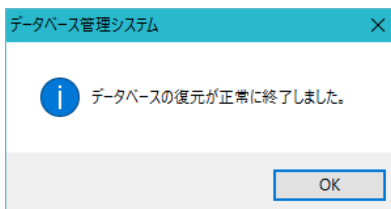
② 復元する退避ファイルを選択してください。



「開く」ボタン押下で復元処理が実行されます。



③ 復元完了



上図が表示されて、データベースの復元は完了です。

データベースのユーザー管理

データベースに接続するには Windows 認証か、SQL 認証によりログインする必要があります。ここではそのユーザーを新たに登録、削除などを行う事が出来ます。

但し、通常は「Microsoft SQL Server」に付属している専用のツールをお使い下さい。またはこの「データベースのユーザー管理」機能を使用して下さい。



インストール CD から SQL Server をインストールすると、データベースの管理者ログイン「sa」はパスワード「cbosanpai_2」と設定されます。

■ データベースのユーザー登録

産廃システムのデータベースを使用できるユーザーの登録を行う場合は次の手順で作業して下さい。

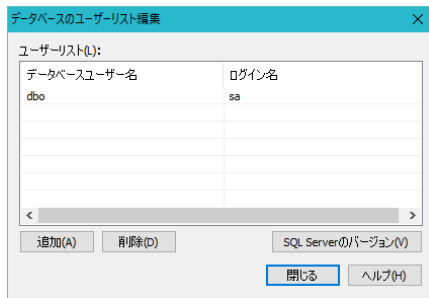
「

データベースの設定

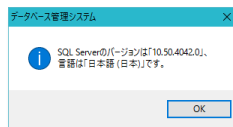
① データベース管理システム(P.7)ダイアログを表示してデータベースへ接続して下さい。

② [データベースのユーザー管理]ボタンを押して下さい。

「データベースのユーザーリスト編集」ダイアログが表示されます。

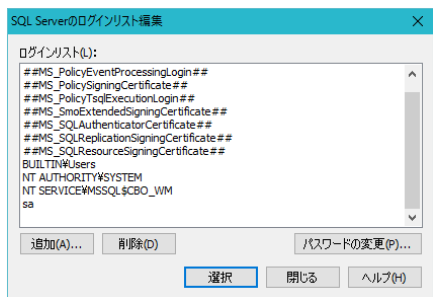


- ユーザーリスト ... 産廃システムのデータベースを使用できるユーザーのリストが表示されます。
- 追加 ... 産廃システムのデータベースを使用できるユーザーを追加します。
- 削除 ... [ユーザーリスト]で選択したユーザーを削除します。
- SQL Server のバージョン ... 現在使用中 SQL Server のバージョン情報を表示します。



③ [追加]ボタンを押して下さい。

「SQL Server のログインリスト編集」ダイアログが表示されます。

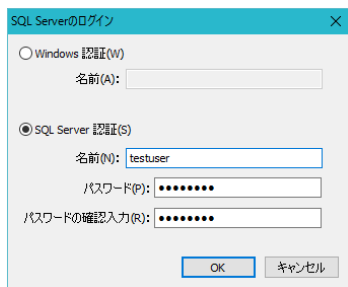


ログインリスト

… 「SQL Server」に登録されているログインリストが表示されます。

追加

… ログインを追加します。
・「SQL Server のログイン」ダイアログ



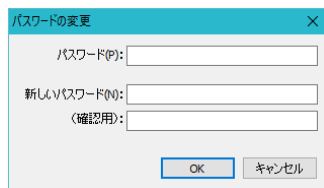
Windows 認証か、SQL 認証のどちらかを選択してログインの追加を行って下さい。Windows 認証の場合は Windows の方に予めログインユーザーを追加しておく必要があります。

削除

… [ログインリスト]で選択したログインを削除します。

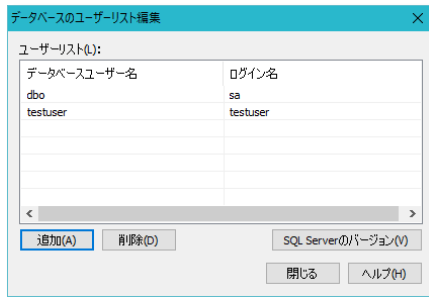
パスワードの変更

… ログインリストからログインユーザーを選択後、該当ユーザーのパスワードを変更します。



④ [ログインリスト]から産廃システムのデータベースを使用できるユーザーを選択して[選択]ボタンを押して下さい。

「データベースのユーザーリスト編集」ダイアログへ戻りユーザーが追加されます。



「SQL Server」の管理者ユーザーである「sa」はリストに追加できません。但し、産廃システムでは「sa」でログインしても特に問題なく動作します。

WasteManagerSQLServer のファイアウォール設定

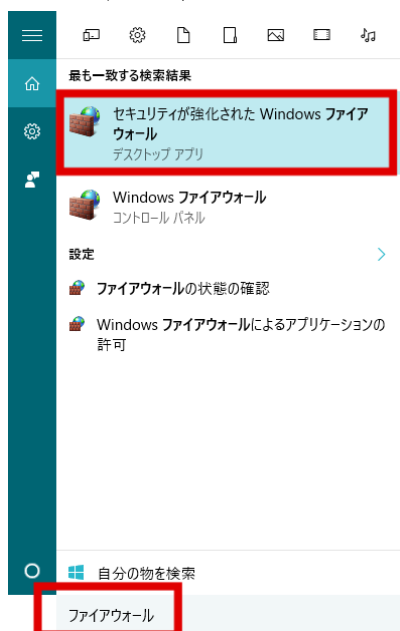
複数の PC で運用される場合、データベースエンジン SQLSERVER を他の PC から参照できるようにする為、実際に通信を行う「SQLSERVER 実行ファイル」と「SQLSERVER 公開ファイル」を ファイアウォールの例外に登録する必要があります。

上記 2 ファイルの場所を確認し、ファイアウォールの設定画面で登録を行います。

※単独の PC 上で使用する場合、ファイアウォールの設定を行う必要はありません

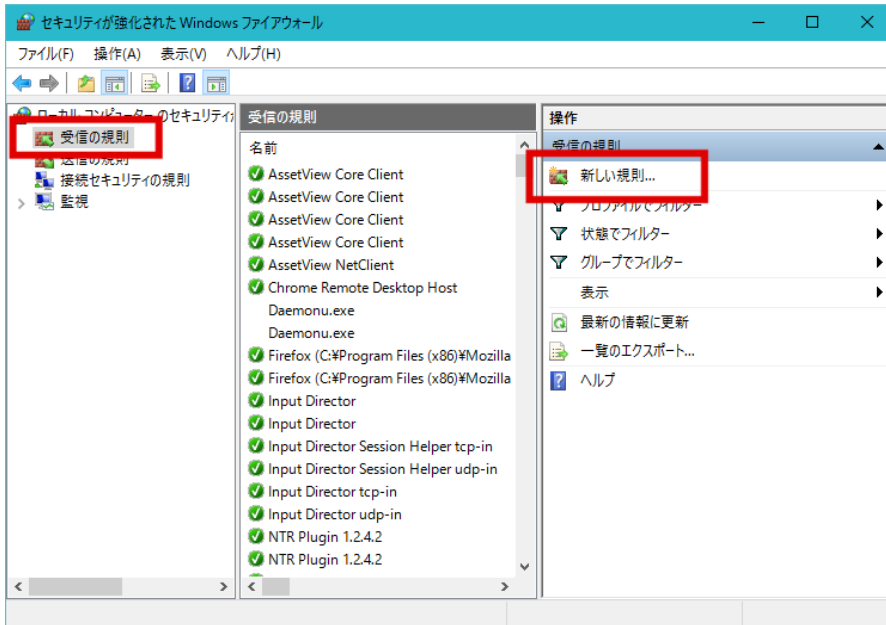
■ ファイアウォールへの例外設定

プログラムとファイルの検索/Windows を検索の窓に「ファイアウォール」を入力、「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」を開いてください。



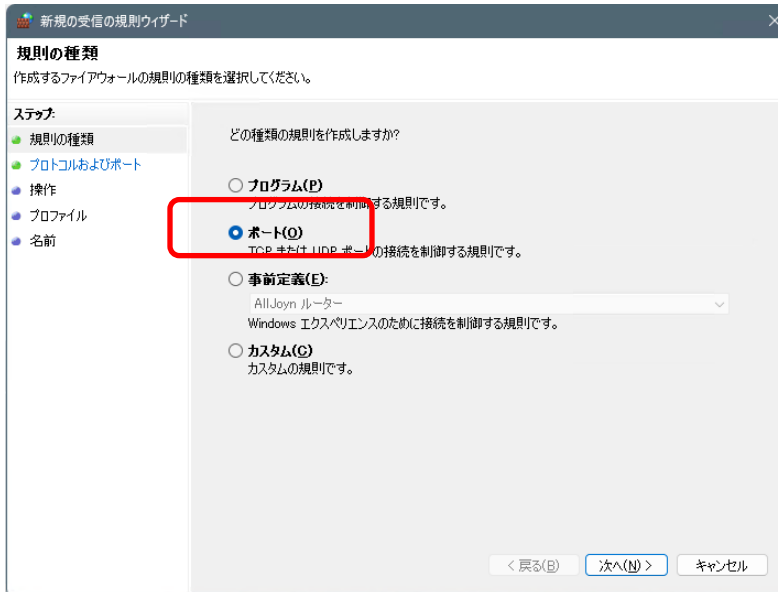
■ MSSQLSERVER 実行ファイルの例外設定

受信の規則に新しい規則を追加します。



■ MSSQLSERVER 実行ファイルの例外設定

ポートを選択して「次へ」



■ SQLSERVER 実行ファイルの例外設定

ポートの種類として「TCP」を、特定のローカルポート「1433」を入力、「次へ」

新規の受信の規則ウィザード

プロトコルおよびポート
この規則を適用するプロトコルとポートを指定してください。

ステップ

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

TCP と UDP のどちらにこの規則を適用しますか？

TCP(T)

UDP(U)

すべてのローカルポートと特定のローカルポートのどちらを対象にこの規則を適用するかを選択してください。

すべてのローカルポート(A)

特定のローカルポート(S): 1433

例: 80, 443, 5000-5010

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

■ SQLSERVER 実行ファイルの例外設定

「接続を許可する」を選択して「次へ」

新規の受信の規則ウィザード

操作
規則で指定された条件を接続が満たす場合に、実行される操作を指定します。

ステップ

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

接続が指定の条件に一致した場合に、どの操作を実行しますか？

接続を許可する(A)

IPsec を使用して保護された接続と保護されていない接続の両方を含みます。

セキュリティで保護されている場合のみ接続を許可する(Q)

IPsec を使用して認証された接続のみを含みます。接続は、IPsec プロパティ内の設定と接続セキュリティ規則ノード内の規則を使用して、セキュリティ保護されます。

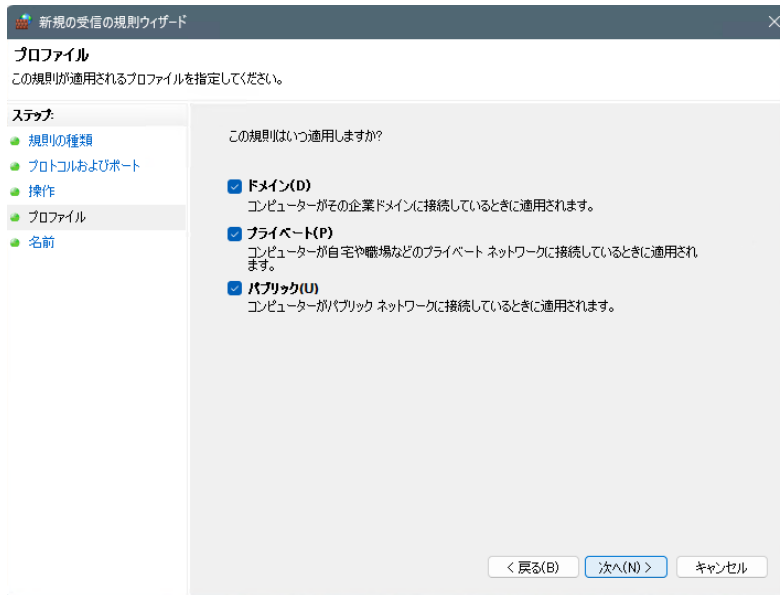
カスタマイズ(C)...

接続をブロックする(K)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

■ MSSQLSERVER 実行ファイルの例外設定

ご利用のネットワーク利用に合わせてチェックを外し「次へ」



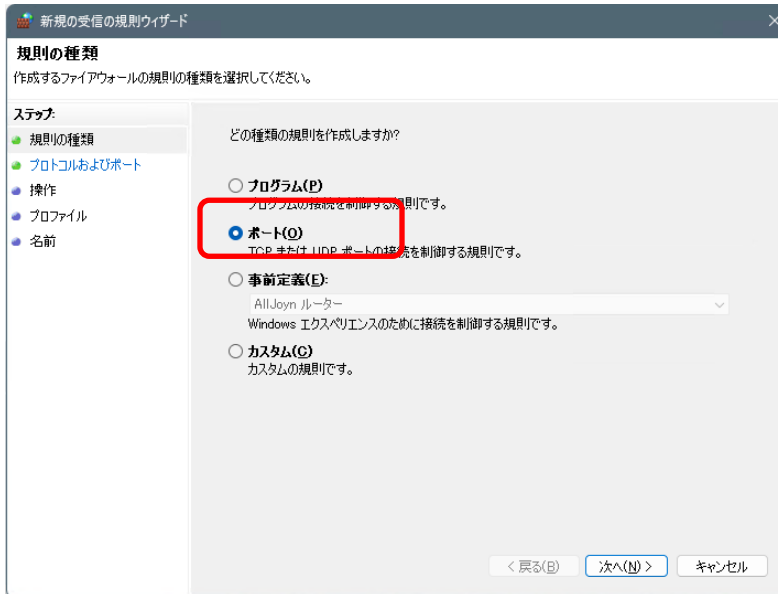
■ MSSQLSERVER 実行ファイルの例外設定

名前を付けて「完了」(SQLServerTCP 受信 等)



■ SQLSERVER 公開ファイルの例外設定

同様に SQLSERVER 公開ファイルについても許可を与えてください。
ポートを選択して「次へ」



■ SQLSERVER 実行ファイルの例外設定

ポートの種類として「UDP」を、特定のローカルポート「1434」を入力、「次へ」



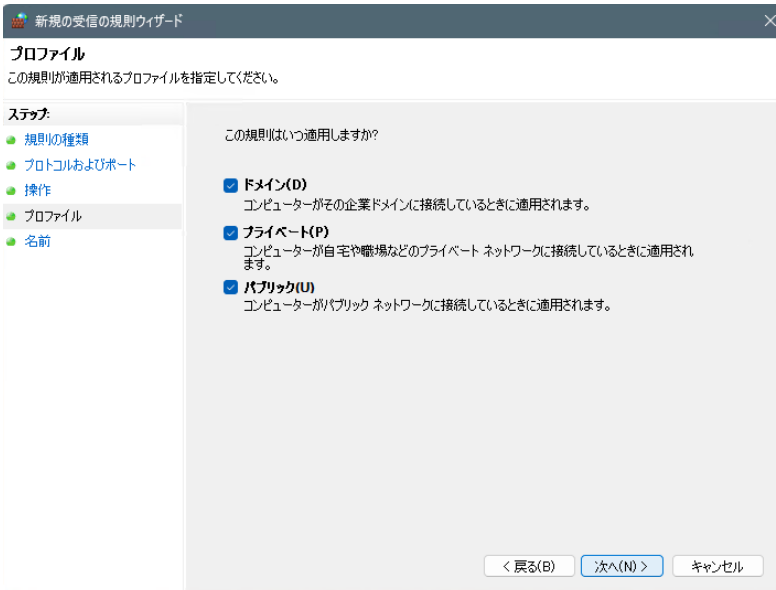
■ SQLSERVER 実行ファイルの例外設定

「接続を許可する」を選択して「次へ」



■ SQLSERVER 実行ファイルの例外設定

ご利用のネットワーク利用に合わせてチェックを外し「次へ」



■ SQLSERVER 実行ファイルの例外設定

名前を付けて「完了」(SQLServerUDP 受信 等)

The screenshot shows a Windows Firewall 'New Rule Wizard' dialog box. The title bar reads '新規の受信の規則ウィザード'. The current step is '名前' (Name), with the instruction 'この規則の名前と説明を指定してください。' (Specify the name and description for this rule). A sidebar on the left lists the steps: '規則の種類' (Rule type), 'プロトコルおよびポート' (Protocol and ports), '操作' (Action), 'プロファイル' (Profiles), and '名前' (Name). The '名前' step is selected. The main area contains a text box for '名前(N):' (Name) and a larger text box for '説明 (オプション)(D):' (Description (optional)). At the bottom, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '完了(F)' (Finish), and 'キャンセル' (Cancel).

データベースへの接続

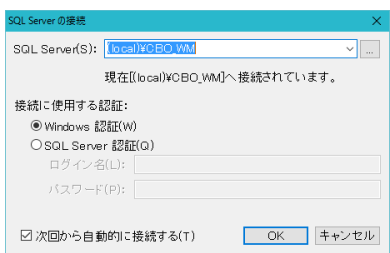
産廃システムを使用する場合には、データベースに接続する必要があります。ここではマニフェスト管理システムでのデータベースに接続する方法を説明します。



産廃システムからデータベースに接続する為には、接続するデータベースに産廃システム用のデータベースが構築されている必要があります。産廃システム用のデータベースを構築する方法は「[データベースの設定](#)」を参照して下さい。

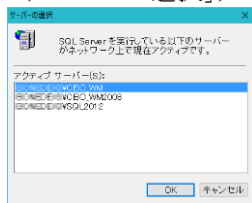
- ① マニフェストシステムを起動して下さい。
- ② 文書編集の場合は[文書]-[データベースへ接続]メニュー、様式編集の場合は[フォーム]-[データベースへ接続]メニューを選択して下さい。

「SQL Server への接続」ダイアログが表示されます。



SQL Server

… 接続するデータベースを選択して下さい。[...]ボタンを押すと「サーバーの選択」ダイアログが表示されます。



「アクティブサーバー」で接続可能なデータベースを選択して[OK]ボタンを押すと[SQL Server]欄に選択したデータベースが設定されます。

Windows 認証

… Windows 認証を行う場合に選択して下さい。

SQL Server 認証

… SQL 認証を行う場合に選択して[ログイン]と[パスワード]を設定して下さい。標準で以下のユーザーが登録されています。他のユーザーを追加する場合は「[データベースのユーザー管理](#)」を参照してください。

Ver2.09 以前ではログイン名:sa パスワード:cbosanpai

Ver2.10 以降ではログイン名:sa パスワード:cbosanpai_2

- ③ 条件を設定して[OK]ボタンを押して下さい。

選択した SQL Server にデータベースへ接続します。